



▶ 若き数学者のアメリカ

[著者] 藤原正彦
新潮社 1997年

ベストセラー・「国家の品格」の藤原正彦氏によるエッセイ。数学者である著者の視点から、“アメリカと自分”について書かれています。

舞台はアメリカ合衆国。米国に乗り込む場面から、滞在最後の夜の場面まで、時間を追ってわかりやすく日記風に書いてあります。著者の心情が素直に表現されていて、不安や劣等感も随所に見られますが、暗い部分も隠さず書くことにより、滞在后半部分の描写からは彼の自信をより感じ取ることができます。また、最後には著者なりのアメリカ論も展開されていて興味深いです。アメリカでの、著者の強気でもありひたむきでもある姿勢からは学ぶところが多くあります。また、英語学習に当たってのヒントもいくつかあり、参考になります。(高木)



▶ アルジャーノンに花束を

[著者] ダニエル・キイス
早川書房 1999年

主人公のチャーリー・ゴードンは、精神遅滞の32歳の男性であった。彼は32歳ではあるが、精神遅滞であるためIQは68しかなく、幼児程度の知能しかもっていなかった。

彼はパン屋で働きながら施設に通い、頭が良くなるよう一生懸命勉強していた。そんな彼の前に、大学の教授から頭が良くなる手術を受けてみないかという誘いが出される。当然彼はその申し出を承諾し、手術を受ける。その結果、彼は手術をした教授をも超える天才になる。そして、精神遅滞であった頃には見えなかった世界が彼の前に広がる。天才になったことで彼はたくさんのことを手にいれ、同時にたくさんのことを失う……。

最後の数ページは涙なしには読めません。(沖原)



▶ 百器徒然袋一雨

[著者] 京極夏彦
講談社文庫 2005年

あることに悩んでいた「僕」は友人の大河内に薦められ、探偵のくせに推理をしないという、薔薇十字探偵社の榎木津礼二郎のもとを訪れる。そして、「僕」のかかえる事件を「僕」自身も巻き込まれながら、榎木津や探偵社の下僕たち、また榎木津の友人・中禅寺とともに解決していく。

読み所は、元華族の次男で眉目秀麗・腕力最強という天に二物も三物も与えられた人物にもかかわらず、とにかくすることなすことハチャメチャな榎木津がどうやって「僕」のかかえる事件を解決するのかというところ。また、解決の仕方が普通では考えられません。榎木津と共に活躍する登場人物たちも個性的で面白いです。(沖原)



▶ 秘密

[著者] 東野圭吾
文藝春秋 1998年

妻・直子と小学5年生の娘・藻奈美を乗せたバスが崖から転落。妻の葬儀の夜、意識を取り戻した娘の体に宿っていたのは、死んだはずの妻でした。その日から杉田家の切なく奇妙な“秘密”の生活が始まります。

映画「秘密」の原作であり、98年度のベストミステリーとして話題をさらった長篇小説です。

実際は、非現実的な物語なのに、どこかリアリティを感じさせる作品です。夫と妻、それとも父親と娘なのか？夫として、父親として、一人の男としての心情が切なく綴られています。読み終えたとき、やっと「秘密」という題名の理由が分かった気がしました。(高木)



▶メゾン・ド・ヒミコ

[監督] 犬童一心
2005年製作／日本

癌に冒されたゲイの父親・その恋人の若い青年・そしてその父親を嫌う娘。優しさと哀しさが宿るゲイのための老人ホームを舞台に、3人の心情を通し愛と絆、欲望と希望を綴った感動ドラマ。オダギリジョーと柴咲コウ共演作。

なんと衝撃的な設定ですが、実は誰にでもある、ごく普遍的なことが描かれています。人間はみんな孤独なもの。そして誰かと一緒にいることはどこまでも優しく温かい……。

どこか物悲しく、でも心温まり思わず微笑んでしまう、そんな映画でした。感じ方は人それぞれだと思います。ぜひ一度観てみてください。(高木)



▶ショーシャンクの空に

[監督] フランク・ダラボン
1994年製作／米国

舞台は1947年、アンディ・デュフレーン(ティム・ロビンス)が彼の妻と妻の不倫相手を殺害した罪でメイン州ショーシャンク刑務所に収容されることから物語は始まる。彼は実際は無罪であったが、状況証拠により有罪判決を受けてしまう。アンディはチェスと読書を楽しむ物静かな男であったが、決して折れない強い心を持つ男でもあった。彼は刑務所内でその不屈の精神を発揮し、腐敗しきっていた刑務所内に少しずつ新しい風を吹き込んでいく。そんな彼を他の囚人たちも次第に認めていった。特に刑務所内で様々な物を調達していたレッドは、アンディとの友情を深め、彼から大切なことを学んでいく。そして最後には——。

清々しいラストシーンは本当に見ものです。(福岡)



▶コーチ・カーター

[監督] トーマス・カーター
2005年製作／米国

実話に基づくお話。多くの学生が卒業できない状況にあるリッチモンド高校に、バスケットのコーチとして、カーターがやってくる。彼もまたこの高校の出身で、多くの輝かしい実績を残していた。彼は選手たちに対し、バスケットとは関係ない内容まで書かれた契約書を守るように言い、厳しい練習を始める。当然、選手たちは反発するが、徐々にその関係にも変化が——。

見所はカーターと選手たちの関係の変化に加え、選手たちを取り巻く厳しい現実。そしてとにかく試合シーンがかっこいい！バスケットをしたことがない人もやってみたくなるかも。DVDの本編以外にある、実際のカーター氏などの話や撮影の裏側などもお薦めです。(沖原)



▶オオカミの誘惑

[監督] キム・テギョン
2004年製作／韓国

父親の死によってソウルに上京し、再婚した母親と暮らすことになった、いたって普通の女の子・ハンギョン。そんなハンギョンに何故か、女の子みんなが憧れるかっこいい男の子・ヘウォンが一目惚れ。その上違う高校に通う、ヘウォンのライバル・テソンまでハンギョンにアプローチ。テソンはそれまで一度もハンギョンと会ったことがないはずなのに、なぜか彼女を「姉さん」と呼ぶ。その理由とは？

そしてハンギョンをめぐる、この微妙な三角関係の行方は——？

まさに少女漫画！という感じですが、最後はとても切なくなってしまいました。(沖原)